

P I a m

D o

S e e

小さいことを全力で

朝日町立あさひ野小学校

校長 小川 晋

今年の高校野球は、沖縄県の興南高校の春夏連覇で終わりました。春夏連覇は夏の大会92回の歴史の中で、6校目の偉業です。沖縄県の夏の大会の優勝は初めてで、県民の悲願でした。非常に危ない試合もありましたが、慌てる様子もなく、必ず逆転できるという選手たちの自信が私には感じられました。自分たちの力を一つ一つ確実に発揮して勝ち続けた選手たちには、優勝しても派手なガッツポーズはありませんでした。とても鍛え抜かれ、躰けられた選手たちでした。私は、この選手たちの姿に惹かれるとともに、監督にも強く興味を抱きました。

07年春、我喜屋（がきや）さんが監督として戻った母校は、「なんくるないさ（なんとかなる）」にあふれていたそうです。選手は朝食をとらなかつたり、寝坊して練習に参加しなかつたり……。監督は「なんくるないさじゃ何ともならない」と寮の消灯時間を1分過ぎることも許しませんでした。「小さなことができない者は大きなことができない」という信念のもと、監督は優勝を目指して、まずは選手の生活習慣を改めることから始めました。あいさつから始まり、掃除をしっかりとすること、規則正しい生活を送ることなど、精神を律することを徹底したそうです。

春の優勝以来、「沖縄の学校は、春は優勝できても夏は優勝できない」という声をはね返そうと、監督は「高校生は毎日が発展。毎日、生まれ変わらせないといけない。ただそれを実行するだけ」の意気込みで、常に選手の意識改革を図り続けました。そうした毎日の監督とのかかわりの中で、選手は自分で考えながら野球や私生活に真剣に向き合ったものと思います。選手一人一人の野球技術も人間性も大きく成長したのでしょう。結果、見事に春夏連覇を果たしました。

主将としてチームをまとめる我如古（がねこ）選手は優勝インタビューで「私生活はこのチームにも負けないから、大舞台になるほど平常心でできる」と自信をもって語りました。監督は「常日ごろから、小さいことに全力で取り組む“ちびっこ軍団”が、大きなことをやってくれました」と選手たちをたたえました。

「この子たちは本番に強い」という会話を耳にすることがあります。「本番に強い」子どもは、どのようにしたら育っていくのでしょうか。私は、監督や主将のインタビューの言葉から、その答えをみつけたように思いました。「小さいことを一つ一つ、確実に取りまわせること」。つまり、日々の教師の指導と、それによる子どもの学習の積み上げがあってこそ大きなことを成し得るのではないかということです。価値観の多様化により、教師の価値観が異なりがちになることがあります。「当たり前のことを当たり前に行う」の「当たり前のこと」がブレがちになることもあります。私たちは何をどのように実践していくのかを共通理解し、協働実践していくことが大切です。

私たちの一致した指導観のもと、成長過程に合わせ、小さなことを全力で一つ一つ確実にやり遂げさせていくことが、どんな大きな舞台でも自信をもって自分を表現することができることにつながる……。そうした思いを強くしたこの夏の甲子園でした。